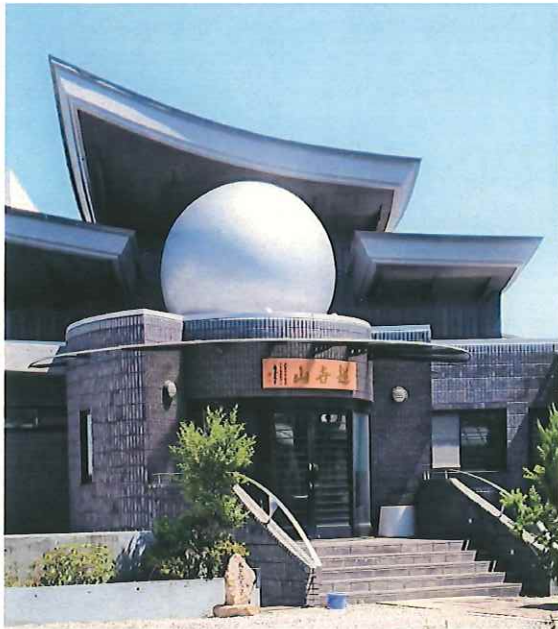


2020年7月

高松市中央図書館報

Newsletter from Takamatsu central library



浄願寺本堂



じょうがんじ はげだぬき
浄願寺の禿狸の看板
「禿さん」は「白禿大明神」と
してお祀りされ、親しまれて
います。

図書館ですてきな出会い人と本

●マスク着用の夏を快適に過ごすには

コロナ感染予防のために何かと自粛し、限られた空間で生活することでストレスを感じている人も多いのではないのでしょうか。また、暑さに体が慣れず、どこことなく体の不調を感じている人もいるかと思えます。

ストレスは、自律神経と深い関係があります。自律神経は自分の意志とは関係なく、内臓などの器官をコントロールするもので、交感神経と副交感神経から成ります。交感神経は興奮したり、緊張した時にはたつき、副交感神経はリラックスしているときにはたつきません。ストレスで体調が悪くなるのは、交感神経が興奮した状態が続いているからで、体の興奮状態を緩める必要があります。

そんな時に、アロマテラピーや、ハーブを用いてリラックスするのはどうでしょうか。これらは、日本では香りを楽しむことが多く、民間療法のひとつですが、海外では、フィトテラピーという植物の効能を利用した医学療法もあるようです。

アロマテラピーは、植物から抽出した精油を使ったリラックス方法で、岩塩にいれて入浴剤にしたり、ホホバオイルなどに混ぜてマッサージしたりします。ハーブは、生または乾燥した花や葉など、植物そのものを用います。お茶にして飲んだり、香りを楽しむなどします。精油やハーブの好きな香りを嗅ぐことは、気持ちを切り替えたり、落ち着いた気持ちになることに効果があるようです。

詳しくは、「ハーブ」や「自然薬」「アロマテラピー」などの項目で、図書館の4998の書架をご覧ください。

中央図書館 7月休館日のお知らせ

6日、13日、20日、27日、31日

『さぬきの狸』 市民文庫シリーズ⑨
北條令子 / 著 高松市図書館 / 1996 年



タヌキの昔話は、和尚さんや小僧さん、村の人などが出てきて、タヌキのいたずらに巻き込まれたり、恩返しをしたりさまざまあります。この本には、タヌキの話ばかり 60 余りが集められています。

その中の一つ、「ないたのだあーれ」には高松工芸高等学校の東にある浄願寺の「はげさん」と言われるタヌキが出てきます。

浄願寺に一匹のたぬきが長年住んでいた。このたぬきは利口で、あちこちに出かけてお灸を施していた。

ある日、三豊にでかけていたところ、財田川を渡ろうとしたものの、大水で渡れない。そこへ一人の男が渡ろうとしたので、お礼をするからと肩へ乗せてもらい、無事わたることができた。

たぬきは金の茶釜に化けて、男にお金に換えるように言う。男は茶釜を売り、大金を得るのだが、たぬきはと言うと、茶釜として湯を沸かすために火にかけられ、ついに我慢ならず、たぬきにもどり、浄願寺に逃げ帰ってくる。可哀そうなことに頭にやけどを負って剥げてしまうのだ。おんおんとないているたぬきを哀れに持った和尚さんは、お供えのおかざりをたぬきにあげる。

「いま ないたのだーれ 浄願寺のはげだぬき おかざり みつつで わーらった」

とはやしうたが残ったということだ。

(さぬきの狸「ないたのだあーれ」から要約)

この浄願寺のタヌキの話には『浄願寺のはげだぬき』という題で違う話があります。寺の近所に住む老夫婦があまりに貧乏で年越しができず、見かねたタヌキが人助けにと茶釜に変わるといふものです。この話では毎日茶釜を磨かれて頭が剥げてしまいます。和尚さんにおかざりをもらって泣き止み、はやしうたを歌われることが共通していて、この話の肝心なところです。

さて、「はげさん」はうどん屋さんで毎度「かけ一丁」と注文をし、かけうどんをおいしそうに食べたり、戦争で日本が苦戦を強いられていると聞くと、小豆をタヌキの術（妖術？）で兵隊に変えて敵を攪乱させたりと大活躍します。

なぜこんなにタヌキが愛されているのでしょうか？西日本の昔話ではキツネはタヌキより一枚上手の化かし名人で、賢く抜け目ない者とされ、少し鈍いタヌキは愛される存在です。東日本の昔話ではキツネが愛されており、タヌキは「かちかちやま」のように、悪者として登場する話が多いようです。東日本にはキツネを祀った稲荷神社が多く、西日本には稲荷神社が少ないからではないかという説があります。また、キツネは女の象徴で、タヌキは男の象徴とした話も多くあります。

生息域を見ると、タヌキは日本全国に生息していて、キツネは日本全国に生息するものの、四国では珍しいようです。現代のタヌキは、人の家の庭にも出没するなど身近な動物です。体つきは丸く、垂れ目のように見える目の周りなど、容姿からは愛らしさを感じます。

本の終わりころにある「四国に狐が住まぬわけ」では、タヌキとキツネが化かし修行で岡山に出かけたところ、タヌキがキツネに負けて四国へ逃げ帰ったり、キツネが殿様の奥方に化けたものの、殿様にばれてしまい、キツネ一族もろとも四国を追放されたり、タヌキとキツネの因縁の対決が書かれています。ひょっとしたら、この話がもとで四国にはキツネが少ないのかもしれませんが。(S)



図書館員のおすすめ本



『世界のはての少年』 ジェラルディン・マコックラン / 著

東京創元社 / 出版 2019年 9337/マコ (1階 新着コーナー / 2020.7月現在)

スコットランドの小さな貧しい島で暮らす少年・クイリアムは、海鳥を獲るために無人島へ向かう。それはこの地方の少年たちが、大人になるための通過儀礼でもあった。しかし、3週間が過ぎ、半年を過ぎても迎える船は来ない…。壮絶な自然の厳しさ、飢えやけが、感情のやり取り。1727年、ヘブリディーズ諸島の中の一つ、ヒルタ島の史実をもとにした驚くべき物語。

「世界が終わっても、音楽と愛だけは生き残る」という言い伝えをはじめ、様々な伝説が残る島をもとに、文学の栄位あるカーネギー賞を本作で二度目の受賞となる著者が描いた、厳しさの中でも美しさを放ち、現代の状況にも驚くべき類似を感じさせる物語です。(U)

7月の行事と作品募集

読書感想画ワークショップ

【日 時】令和2年7月18日(土)・19日(日) 両日とも9時30分～正午

【場 所】サンクリスタル高松 3階 第1集会室 【対象】高松市内の小学生 【定員】15人

【応募方法】往復はがきに氏名(参加者と保護者)・郵便番号・住所・学年・電話番号を記入し、下記のあて先へ。締切は7月8日(水)(当日消印有効)

〒760-0014 高松市昭和町一丁目2-20 高松市中央図書館「読書感想画ワークショップ」係
(7月14日(火)までに参加者を決定しお知らせします)

第9回「高松市 図書館を使った調べる学習コンクール」体験講座 むしむし博士 松本さんにきく! 「むしむしクイズ」

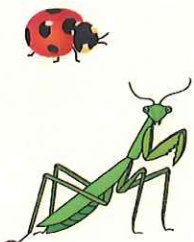
【日 時】令和2年7月23日(木・祝) 午後1時15分～3時

【場 所】サンクリスタル高松 3階 第1集会室

【対 象】高松市内の小学生 定員:20名(先着順)

【申込み】7月1日(水)午前9時30分～7月15日(水)午後5時までに

中央図書館(業務係)まで、お電話(861-4501)にてお申し込みください。



応募された全作品は11月1日(日)開催
第16回 高松市子ども読書まつりにて展示!

作品募集のお知らせ

「第9回高松市 図書館を使った調べる学習コンクール」、「読書感想画展」作品募集!

【募集期間】令和2年8月20日(木)～9月11日(金)

【対象】高松市内在住の小学生、保育所、幼稚園、こども園園児

【応募方法】開館時間内に最寄りの高松市図書館へ持参。

【募集要項】高松市各図書館カウンターにあります。

また、図書館のホームページからもダウンロードできます。



参考文献

『さぬきの狸』北條令子 / 著 1996年 / 高松市図書館 T3881/村

『じょうがんじのはげだぬき さぬきの伝説集』

新教育研究会 / 編 1949年 / 多度津町 新教育研究会 T3881/ソ

『日本の哺乳類』阿部 永 / (ほか) 著 1994年 / 東海大学出版会 4890/ニホ

『日本動物民族誌』中村 禎里 / 著 1987年 / 海鳴社 3881/カ

『動物妖怪談』中村 禎里 / 著 2000年歴史民俗博物館振興会 3881/カ





中央図書館7月行事予定

■■■■ ・・・休館日

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、イベント等の開催を中止・延期する場合があります。今後の開催予定は、ホームページや館内掲示でご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
			1 ●ゆりかご おはなし会 10:00～	2	3	4 ●なかよしかみしばい 14:00～
5	6	7	8	9	10	11 ●おはなしの かけはし 14:00～
12	13	14	15 ●にこにこ おはなしひろば 15:30～	16 ●わらべうたで あそぼう 10:30～	17	18 ●コットツリーのへや 10:30～ ●本さんこんにちは 14:00～
19 ★読書感想画 ワークショップ 18・19日 9:30～12:00	20	21	22	23 ★調べる学習体験講座 13:15～15:00	24	25 ●伝々虫のおはなし会 10:30～
26	27	28	29	30	31	

音楽の小部屋

『for your smile』 FRIED PRIDE 21 / フラ

ヴォーカル：Shiho と、ギター：横田明紀男によるジャズユニット、フライドプライドのデビュー10周年アルバムです。最小限の編成で豊かなアンサンブルを奏でる彼らの魅力は、シホさんの圧倒的な歌唱力と横田さんの超絶技巧の演奏力。音数の少なさが絶妙の隙を作り、見事なグルーブを生み出しています。



このアルバムはジャズやポップスのスタンダードを彼ら流にアレンジした、大人のための作品集と呼べるもので、コール・ポーターのミュージカル曲やアントニオ・カルロス・ジョビンのボサノバ、ジャズの名曲「チュニジアの夜」などおなじみの曲が並んでいます。おすすめはマイケル・ジャクソンの大ヒット曲「バッド」。ギターのボディをパーカッションのように使い、変幻自在のギターワークが堪能できる名演だと思います。

このコーナーでは、毎月一枚、音楽好きの図書館員より個人的おすすめCDを紹介していきます。

視聴覚だより 2階 AV コーナー

特集「夏は音を楽しむ！」



- CD 『旋律』 35/㍿
『二人囃子』 54/㍿
- DVD 『Takamatsu International
PIANO COMPETITION』 TD8 1/㍿
- VHS 『ミュージック・オブ・ハート』 V11/㍿
『屋根の上のバイオリン弾き』 V16/㍿

＜ピックアップ作品＞

CD 『ヒチリキ・ラブソディ』
27/ トウ

雅楽師・東儀秀樹が古典からロックの名曲、オリジナル曲を雅楽器だけではなく、ピアノやギター、ベースなどで収録している、雅楽を身近に感じられる一枚です